



学校通信

令和5年10月2日
東京都立葛飾盲学校長
岩下 桂郎
(第7号)

スクールカウンセラーについて

校長 岩下 桂郎

彼岸花の話題がテレビで取り上げられるなど、少しずつ秋の気配を感じるようになりましたが、まだまだ日中の日差しは強く、運動会の練習もなかなかデッキグラウンドで行えない状況です。また、都内の特別支援学校でもインフルエンザが流行しており、会場や内容を変更せざるを得ないことも懸念されます。どうか御理解と御協力をお願いします。

さて、今回はスクールカウンセラーについて御紹介したいと思います。

スクールカウンセラーは、「児童生徒が抱える問題に学校ではカバーし難い多くの役割を担い、教育相談を円滑に進めるための潤滑油ないし、仲立ち的な役割を果たす（文部科学省ホームページより）」とあるように、学校外部の職員として、主に児童・生徒を対象とした相談支援を行い、また困りごとに学校としてどう対応すべきか助言をする役割を担っております。

本校にも、臨床心理士の資格を持つ東泉隆夫さんが、スクールカウンセラーとして月に1回程度来校して、子供たちや時には教員の困りごとに対して、心が整理できるように様々なアプローチをしています。自己肯定感を高めるためのワークやマインドフルネスを高める呼吸法など教員とは違った方法で、子供たちの心が軽くなるよう支援しています。

現在は多様化の時代といわれていますが、特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒はどうしても生活の範囲が狭くなりがちで、関わりのある大人も限られてしまいます。誰かに相談すること。特に、保護者や教員とは違う立場の大人に相談することはとても大切です。スクールカウンセラーの相談支援やワークによって、心の整理が上手にできるようになってほしいと思います。

教員の退職についてお知らせします。小学部3年1組を担当していました小宮美保が退職いたしました。指導に影響がないよう学部で対応し、進めていきます。

「地域におけるセンター校としての役割」

今回は、本校における視覚障害教育のセンター的機能の中から、外部支援の活動について御紹介します。外部支援とは、本校で行っている「見えない」「見えにくい」幼児・児童・生徒への配慮や工夫について、その手立てを地域の学校に通うお子さんや担任の先生方への支援に役立てる取組です。視機能評価、学習方法の提案、補助具や拡大教科書などの紹介、福祉・医療の情報提供などを行っています。また、近隣の学校から、視覚障害や盲導犬についての授業や教員への研修会を依頼されることもあります。夏休み期間には、足立区、葛飾区の小学生とその保護者を対象に「見え方の相談会」を実施しました。「集中できない」「漢字が苦手」「視写できない」など、苦手の背景には「見る力」が関係していることがあります。「ボールが目で見えない」「よくぶつかる」など、相談内容は様々ですが、タブレット端末などの普及、コロナ禍で室内遊びが増えたことによる目の使い方に関する相談も増えてきています。これらの取組から学ぶことも多々あり、本校の教育へ還元できるよう心掛けています。(支援部 大森)